

立命館大学アート・リサーチセンター

文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
2016年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2017年 4 月 15 日 提出

1. 研究課題名	
デジタル・アーカイブ手法を用いた近代染織資料の整理と活用 (英文標記: Organization and Utilization of Modern Printed Textile Research Materials through the Method of Digital Archiving)	
2. 研究代表者	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
青木 美保子 (あおき みほこ)	京都女子大学・准教授
3. 研究分担者 (合計: 5名)	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
並木誠士 (なみき せいし)	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科・教授、 同大美術工芸資料館・館長
鈴木桂子 (すずき けいこ)	衣笠総合研究機構・教授
上田文(うえだ あや)	関西学院大学・非常勤講師、同志社女子大学・非常勤講師
山本真紗子 (やまもと まさこ)	立命館大学非常勤講師
加茂瑞穂 (かも みずほ)	立命館大学非常勤講師
4. 研究課題の概要 (300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)	
<p>本研究は、学術資料として俎上に上がっていない近代染織史に関連する資料の整理・蓄積をすすめるものである。近代染織史を研究するための資料は散在し、かつ未整理のものが大半であり、基礎的な資料調査が必要不可欠な段階にある。一方、近代の染織産業については聞き取り調査も研究手法の有効な手段であり、文献資料には残らない情報を収集することができる。そこで、本研究では、近代染織研究に必要な資料整理や調査を進めつつ、資料・情報を蓄積していく場を構築し、情報技術を駆使してその共有化を進める。この資料・情報の整理・蓄積・共有化は、染織研究関係者と染織業従事者へ新たな交流の場を提供することとなり、延いては染織業の活性化を模索する足掛かりとなるであろう。</p>	
5. 研究成果の概要	
<p>1. 染織従業者らへの聞き取り調査と聞き取り記録のデジタル・アーカイブ 訪問調査を行い、現在の染織技法や過去の染織産業の状況を音声・動画・静止画により記録した。</p> <p>2. 展覧会の開催 展覧会2件 「京都の墨流し染・糊流し染ーその系譜と新たな可能性ー」と「伝統工芸をデザインするーマドレー染の新たな可能性」を開催した。</p> <p>3. 研究ワークショップの開催 ・「糸・布・衣の廉価化の世界史」(科研費補助金基盤B研究課題)の研究グループと共催で研究ワークショップ「20世紀日本ファッション産業の仲介者たち」を開催した。当該研究交流の成果の一端は、カナダ・アルバータ大学で開催される国際会議「Dressing Global Bodies」においてもパネル発表した。 ・国際ワークショップ「学術資料としての『型紙』ー資料の共有化と活用に向けて」を開催した。</p> <p>4. 染織資料のデータベース化 大同マルタ会旧所蔵資料のデータベース(β版)を整備し、パイリンガル化も進めた。</p>	

6. 研究業績

(1) 著書

- ・山本真紗子「花かんざし 金竹堂」「つげ櫛 十三や」『日本髪大全』誠文堂新光社、田中圭子著、2016年5月、pp.36-39・pp.172-175
- ・編集執筆 青木美保子、翻訳 鈴木桂子『京都の墨流し染・糊流し染—その系譜と新たな可能性—』(展覧会図録)、2016年10月、京都工芸繊維大学美術工芸資料館/立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」、全27頁
- ・編者 並木誠士・青木美保子、著者：並木誠士・青木美保子・上田文『京都 近代美術工芸のネットワーク』2017年3月、思文閣出版、全352頁
- ・共編 鈴木桂子・加茂瑞穂『国際ワークショップ 学術資料としての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて 報告書』、2017年3月、立命館大学アート・リサーチセンター、全94頁

(2) 論文

- ・青木美保子「「マドレー染」のドレス—復活した京都の希少染色技法糊流し染を活用して—」『服飾文化学会誌〈作品編〉』Vol.9 No.1、pp.59-64、査読有
- ・Keiko Suzuki, “Comparisons of Different Configurations for Image Colorization of Cultural Images Using a Pre-trained Convolutional Neural Network,” JADH2016:60-63, Tung Nguyen, Ruck Thawonmas, and Masaaki Kidachi, 査読有
- ・Keiko Suzuki, “Development of a Support Tool for Categorizing Ukiyo-e’s Pictorial Themes: A System to Deal with Visual Features and Similarities,” Digital Humanities 2016: 880-882, Shinya Saito, 査読有
- ・山本真紗子「伝統産業における分業の功罪—立命館大学京友禅着物プロジェクトを通して—」『デザイン理論』68、pp.35-48、査読有
- ・上田文「土田麥僊『松岳』時代の作品について(一)—山水図を中心に—」『佐渡郷土文化』第140号、佐渡郷土文化の会、pp.32-37、査読無
- ・上田文「土田麥僊『松岳』時代の作品について(二)—人物図を中心に—」『佐渡郷土文化』第141号、佐渡郷土文化の会、pp.47-51、査読無
- ・上田文「土田麥僊『松岳』時代の作品について(三)—「高砂図」「花鳥図」—」『佐渡郷土文化』第142号、佐渡郷土文化の会、pp.40-44、査読無

(3) 研究発表等

- ・Aya UEDA, From Kyoto to Africa: Creating “African Wax” and “Javafrican Prints” from Daido-Maruta in Japan, 1950s-1980s, “Dressing Global Bodies” Conference, July, 2016, University of Alberta, Canada. 査読有
- ・Keiko Suzuki, “Japan’s Souvenir Business for Foreign Tourists after WWII,” 2016年6月、AAS in Asia, 同志社大学、査読有
- ・山本真紗子「工芸を世界に発信する—グーグル・カルチュラル・インスティテュートを例に」2016年7月、第58回意匠学会大会(パネル発表)、京都精華大学、査読有
- ・Keiko Suzuki, “A Uniform to Embody a Tropical Paradise: Domestication of the Aloha Shirt in Asia,” 2016年7月、“Dressing Global Bodies” Conference, カナダ・アルバータ大学、査読有
- ・青木美保子「「マドレー染」のドレス—復活した京都の希少染色技法糊流し染を活用して—」(作品発表)、2016年5月、服飾文化学会第17回大会、文化学園大学、査読無
- ・上田文「京都のアフリカン・プリント生産と西澤株式会社」、研究ワークショップ：20世紀日本ファッション産業の仲介者たち、2016年6月、於立命館大学アート・リサーチセンター 査読無
- ・加茂瑞穂「型紙データベース構築から活用に向けて」、国際ワークショップ「学術資料としての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて」2016年10月、立命館大学、査読無
- ・青木美保子「近代京都における捺染産業の発展—ロール彫刻業に注目して—」、2016年12月、日本風俗史学会57回大会、京都女子大学、査読無
- ・Keiko Suzuki, “Internationalization of Kimono Culture Since the Meiji Period: A Case Study of the Textile Industry and Fashion Business in Kyoto,” 2017年3月、Third Kansai Workshop on Global Fashion Business: Textile Industry and Fashion Business in the 19th and 20th Centuries: International Comparison, 京都大学、査読無

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

- ・立命館大学 研究成果国際発信プログラム「国際的な型紙研究の基盤構築と活用に関する研究」(代表：鈴木桂子)、立命館大学アート・リサーチセンター、国際ワークショップ「学術資料としての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて」、アート・リサーチセンター、2016年10月、70名、本研究課題

との共催。

・研究ワークショップ「20世紀日本ファッション産業の仲介者たち」、アート・リサーチセンター、2016年6月、50名、「糸・布・衣循環史研究会」との共催。

(5) その他研究活動（報道発表や講演会等）

・青木美保子、講演「きもの文化と丸紅コレクション」、2016年度新入社員集合研修会、丸紅株式会社（大阪）、2016年4月20日

・青木美保子、講演「京友禅と型染の歴史」、日本家政学会第35回被服衛生学セミナー、2016年8月26日

・新聞掲載「「型紙」を学術資料として共有化へ」『染織新報』2016年10月26日

・青木美保子、放送協力「きもの千年のトキメキ」『歴史秘話ヒストリア』2017年1月13日

・青木美保子、講演「京都の墨流し染・糊流し染ーその新たな可能性ー」、日本家政学会 被服構成学部会平成28年度 公開研究例会、2017年3月8日

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

・「近代京都の美術・工芸に関する総合的研究 - 制作・流通・鑑賞の視点から -」基盤研究（B）、平成27年度-30年度、代表：並木誠士、分担：青木美保子、上田文、山本真紗子、協力：加茂瑞穂

・「18-20世紀の糸・布・衣の廉価化をめぐる世界史」基盤研究（B）、平成27年度-30年度、分担：鈴木桂子

(8) 競争的資金等（科研費を除く）

・「糊流し染「マドレー染」の復活における記録と希少染色技法を活かした新たなものづくりの可能性と事業化について」京都産学公連携機構文理融合・文系産学連携促進事業、2015年7月-2016年6月、代表：鈴木桂子 分担：並木誠士、青木美保子

・「国際的な型紙研究の基盤構築と活用に関する研究」立命館大学研究高度化推進制度・研究成果国際発信プログラム、2016年4月-2017年3月、代表：鈴木桂子、分担：加茂瑞穂、山本真紗子

・「京都における伝統産業資料の保存と活用プロジェクト」日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点 研究拠点形成支援プログラム、2016年4月-2017年3月、分担：鈴木桂子、加茂瑞穂、山本真紗子

(9) その他